

社会政策学会 Newsletter

- ◇ 学会本部 お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 平岡公一研究室
URL: <http://www.sssp-online.org/> TEL: 03-5978-5246 E-mail: hiraoka.koichi@ocha.ac.jp
- ◇ 編集・発行 平岡公一 (代表幹事) 首藤若菜 (Newsletter 担当幹事) 森周子 (事務局長)
- ◇ 事務センター 〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 4-1-1 オザワビル (株) ワールドプランニング
Tel : 03-5206-7431 Fax : 03-5206-7757 E-mail : world@med.email.ne.jp

《目次》

1. 第 131 回大会 (2015 年度秋季) 開催にあたって
2. 第 130 回大会 (2015 年度春季) 報告
3. 第 130 回大会 (2015 年度春季) 会計報告
4. 中国社会科学学会に参加して
5. 高島道枝名誉会員の逝去について
6. 2014-2016 年期幹事会報告
7. 承認された新入会員

1. 第 131 回大会(2015 年度秋季)開催にあたって

社会政策学会第 131 回大会(2015 年度秋季)は 10 月 31 日(土)、11 月 1 日(日)に開催されます。10 月 31 日(土)の 1 日目は共通論題と臨時総会を、11 月 1 日(日)の 2 日目は書評分科会とテーマ別分科会と自由論題報告を開催いたします。

西南学院は、1916 年、米国南部バプテスト派宣教師 C.K.ドージャーによって福岡市に創立され、来年創立 100 周年を迎えます。高等教育機関としては、1949 年に新制大学として西南学院大学が設立されてから 60 年以上になります。前身の西

南学院高等部が設立された 1921 年から数えますと 90 年以上の歴史を持つこととなります。

今回が本学での社会政策学会大会の初めての開催となります。地方の活力に期待がかかる今日、学院創立 100 周年を迎えようという時期に歴史ある学会の大会を引き受けさせていただくことには大きな意義があると考えます。参加者の皆様にはご不便をおかけする点もあるかと思いますが、できる限り丁寧な準備とスムーズな大会運営とに努めたいと考えておりますので、何とぞご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

今回の大会の共通論題は「外国人労働者問題と社会政策」というものです。日本における当該問題について、1980 年代以来の展開と現状の総括そして今後の展望、多国籍企業における「高度人材」活用の動向、社会保障制度の適用上の問題、地域における受け入れの実態など、多面的なアプローチでの報告が予定されています。その他本大会でのテーマ別分科会、書評分科会、自由論題での研究報告や共通論題での議論が、将来の日本社会をより良い方向にリードする契機になることを願います。

実行委員会一同、参加者の皆様にとって快適な大会環境を作れるように努力させていただきます。できるだけ多くの会員が集い、熱心な議論が展開されることを心より期待して、会場でお待ちしております。

第 131 回大会実行委員会 平木真朗

2. 第 130 回大会(2015 年度春季)報告

社会政策学会第 130 回大会(2015 年度春季)は、6 月 27 日(土)、28 日(日)の両日、27 日はお茶の水女子大学キャンパス、28 日は専修大学神田キャンパスで開催された。天候は 1 日目は雨のち曇り、2 日目は晴れ。参加者は 350 名であった。

1. 開催校引き受けの経緯

お茶の水女子大学での開催の提案は 2013 年頃から寄せられていたが、大教室が少ない上に、施設予約が年度始めからしか行われないことなど問題と制約があるので躊躇していた。2014 年冬に代表幹事の平岡公一会員から話があり、施設予約の点から大会開催を 1 か月遅らせること、共通論題会場として専修大学の神田キャンパスを貸して頂ける目途が立ったのでお引き受けした。

2. 大会規模と開催日程

共通論題会場を借りることが可能なのが日曜日であった。従って、1 日目(土曜日)はテーマ別分科会、自由論題報告(午前 6、午後①7、午後②7 の 20 分科会)をお茶の水女子大

学で開催し、2 日目(日曜日)は専修大学で共通論題報告とした。参加者数は会員 292 名、非会員 49 名、海外招待報告者 7 名(国際分科会へ ESPA net から 6 名、第 9 分科会・日本・東アジア部会へ 1 名)、国内招待講演者 2 名(共通論題)の計 350 名であった。懇親会参加者は事前振込 108 名、当日申し込み 40 名、海外招待報告者 7 名の 155 名であった。

3. 大会準備・当日運営について

お茶の水女子大学と専修大学の共同開催が決まり、3 月上旬に大会実行委員会が組織された。専修大学から兵頭淳史会員が副委員長として実行委員会に入って下さることになった。大会の事務作業は外部委託することにし、いくつかの候補の中から過去 3 回の経験のある AC プランニングに依頼することにした。

3 月には施設の仮予約を開始し、4 月からは実際の業務にとりかかった。大会プログラム作成は企画委員会の所道彦会員と連絡を取り、連休前に会員へ送付することを目標にすることにした。AC プランニングとスケジュール調整をし、出版社対

応、プログラムの編集、発送作業などを行った。5 月には専修大学の会場の見学と手配、学生アルバイトの依頼などを行った。準備については、各開催校が追記を重ねる引き継ぎマニュアルが非常に充実しており参考になった。

当日の運営は大学院生スタッフが活躍してくれ、受付の混乱はなく円滑に運営できた。本大会では国際分科会セッションで海外から招待報告者がいたため、英語による案内表示、英語が堪能な受付スタッフも配置した。英語の大会プログラムは国際分科会の鈴木玲会員が準備して下さった。

大会の運営自体については大きな問題は生じなかったが、27 日のお茶の水女子大学の会場となった4教室にエアコンの不調と椅子の不備(椅子の背に強く寄りかかると衣服にシミがつく)があることが大会の約 1 週間前に判明した。エアコン不調については扇風機設置、シミについては参加者に紙エプロンを配布することとした。また、長時間の利用となると思われる部屋は、被害を避けるために教室変更を行った。当日の部屋の温度はそれほど高くならず済んだが、シミは数人に被害が出たことを会場係が確認している。名前が確認できた会員には、後日、お詫びとして図書券をお送りした。27 日の会場については、快適な環境を準備することが出来ず、参加会員には多大なご迷惑をおかけしたことをお詫びしたい。

また、28 日の共通論題会場では、プロジェクターに不具合が生じ、PC 画面がスクリーンに収まりきらないという事態が発生した。パワーポイントの表示モードをスライドショーから編集モードに切り替えて報告していただくことで大きな問題となることを回避したものの、とくに報告者にはご迷惑おかけしたことをお詫びしたい。

4. 懇親会について

事前振込みは108名であった。当日申込みが40名ほどあり、結果的に155名となった。前例を検討し、140名分の料理を発注したが、料理が閉会 30 分前には全くなくなってしまった。量・質ともに充実した懇親会を心がけるというこれまでの引き

継ぎ事項を守ることができず、大変申し訳なく思う。大会運営費の150万円と出版社の広告料を合わせても、大会開催自体が予算ぎりぎりであったため、懇親会の赤字を覚悟して、140名分以上の料理を見積もることはとてもできなかった。会場となった生協食堂では当日追加注文が全くできないというのもこのような事態を引き起こした原因であり、民間の会場にすればこのような事態は避けることができたと思う。懇親会の司会はお茶の水女子大学の申キヨン会員が引き受けてくれ、盛会であった。

5. 費用について

大会開催費(150万円)と出版社からの広告料15万円の165万円で予算を組み運営した。お茶の水女子大学の施設使用料が高いこと、ACプランニングへ事務作業を委託したことで予算を立てた段階で予備費がほとんどなかった。こうした状況下で共通論題会場の専修大学の施設使用料が無料であったことは大変ありがたかった。共通論題の資料等をいれる袋は、お茶の水女子大学の広報から寄付金のお願いの用紙をいれることを条件に提供してもらうことができた。看板は、共通論題会場のものは業者に発注したが、それ以外の看板類を発注する費用がなかったため、全て手作りとして費用を抑制した。1日目と2日目の会場が異なるために、荷物の移動のための費用や会場設営に関わる作業などが発生したが、最終的には別会計によって補てんすることができ、赤字を免れた。

6. 総括

お茶の水女子大学と専修大学の共同開催となった本大会は、会場の移動があり、参加会員には不便な点や行き届かなかった点が多々あったかと思うが、ご容赦いただきたい。

無事に大会を終了することができたのは、実行委員会スタッフの尽力と学会幹事会、春季企画委員会そして参加会員のご協力によるものであり、ここに心から感謝申し上げる。

第130回大会実行委員会 斎藤悦子、兵頭淳史

お知らせ 「社会政策学会研究会情報」の更新情報をお手持ちのパソコンのブラウザに配信しています

学会では会員の皆様に、学会に関連する研究会の開催情報を「社会政策学会研究会情報」(http://d.hatena.ne.jp/sssp_information/)より発信しています。

お手持ちのブラウザのRSS機能を活用しますと、「社会政策学会研究会情報」が更新されたさい、更新情報がブラウザに自動的に配信され、2010年6月まで行っていた研究会情報のメール配信と同等の利便性を維持できます。

学会ではInternet Explorer、Safari、FirefoxでのRSS登録方法をPDFにて説明しています。ぜひご利用ください(http://www.soc.nii.ac.jp/sssp/rss_guidance.pdf)。



3. 第 130 回大会(2015 年度春季)会計報告

本会計

収入		支出	
大会開催費(学会本部)	1,500,000	プログラム、払込用紙、封筒印刷代	302,400
預金利息	96	プログラム郵送料	98,991
不明金	8,000	アルバイト人件費	490,618
		アルバイト弁当代	34,000
		会場使用料/看板	200,612
		休憩室用菓子、飲料代	20,746
		消耗品(文具等)	10,968
		交通費	8,330
		通信費	13,394
		準備および事後処理委託料	465,000
		託児費	14,300
		振込手数料	2,862
		収支差額	-154,125
合計	1,508,096	合計	1,508,096

コメント:本大会は事務作業の一部を業者に委託した。会場使用料(お茶大分)が高額であり、支出は抑制を心がけたが、1日目と2日目の会場移動があり、交通費や看板類等が余計に必要となった。予算作成段階から別会計の広告収入15万円を含む165万円での運営を考え、予想通りに不足した15万円ほどを別会計から補てんした。収入の部の不明金は大会受付時に発生したものである。参加費総額と参加者数を名簿で確認したが、数に相違はなく、追求することができなかった。

別会計

収入		支出	
広告収入	150,000	懇親会費	462,559
弁当代	69,000	弁当代	69,000
懇親会参加費	632,000	本会計収支差額補てん	154,125
		収支差額	165,316
合計	851,000	合計	851,000

コメント:懇親会参加者は前納が108名であり、例年の参加者数をもとに140名分を注文した。当日の懇親会参加者が140名を超え、155名の参加となった。黒字となったが、料理が不足してしまい大変申し訳なかったと思う。最終的な収支差額は16万円ほどとなった。これらは本学の研究・教育費用として活用させていただきます。

参加人数詳細

大会参加		懇親会参加	
事前振込(一般会員)	184	事前申込	108
事前振込(非会員)	3	当日参加	40
事前振込(学生会員)	23	海外招待報告者(国際分科会等)	7
当日参加(一般会員)	73		
当日参加(非会員)	29		
当日参加(学生会員)	9		
当日参加(学生非会員)	17		
名誉会員	3		
海外招待報告者(国際分科会等)	7		
招待講演者(共通論題)	2		
合計	350	合計	155

学会への振込金額

大会参加費: 事前振込	502,000
大会参加費: 当日申込	358,000
合計	860,000

4. 中国社会政策学会に参加して

社会政策学会第 130 回大会において、国際交流委員会と日本・東アジア社会政策部会の合同企画による分科会を設置し、中国社会政策研究専門委員会副会長の関信平を報告者として招聘した。その交流の延長線として、平岡代表幹事、沈国際交流委員長、武川正吾会員および李蓮花国際交流委員の 4 人が中国社会政策研究専門委員会の招聘を受けて、2015 年 7 月 4～5 日に南開大学で開催された中国社会政策 2015 年学術大会及び第 11 回社会政策国際論壇に参加した。

今大会のメインテーマは「新常态：ニューノーマルを背景とした社会政策の在り方」であった。初日 7 月 4 日には、医療・社会救助、社会福祉、社会組織など 6 つのテーマ分科会が並行して行われ、その後「日中社会政策分科会」が設けられた。武川会員、李会員はこの分科会において、日本のケア政策について発表を行い、注目を浴びた。7 月 5 日では、同時通訳付きの「社会政策国際論壇」が開催された。ヨーロッパ、北米、日本及び台湾、香港から参加した学者によって、研究発表及びディスカッションが行われた。平岡代表幹事は、第 1 ラウンドの基調講演にて、“Policy Trends, Reforms, and Challenges in

Long-Term Care Services in Japan”と題した講演を行った。

沈会員は、第 2 ラウンドの指定発表者として「高度経済成長後の社会政策の新視点」について発表した。欧米の学者は、「ヨーロッパの移民と社会政策」や「オバマ時期の社会政策改革」など、バラエティに富んだ課題をあげて発表した。この場での交流は中国の学者だけでなく、諸国や地域から集まった研究者との交流も図れたため、大変実りあるものであった。

また、大会前日、日本の参加者一行は、会食を兼ねて中国側会長の楊団氏、副会長の関信平氏と、今後の国際交流について意見交換を行った。楊団氏は来年も日中分科会を継続したいので、日本側の研究者から発表に来てほしいとコメントされた。その際、費用は基本的に自己負担で、日中韓の交流という形でも良いのではないかと提案した。平岡代表幹事は、学会レベルの交流を継続していくことが重要である点で意見が一致し、来年の春季大会に中国研究者との交流の場を持ちたいと意思を表明した。

そして、交流の具体的な方法に関して、双方の国際交流の窓口を通じて引き続き検討することに合意した。

文責：沈潔

5. 高島道枝名誉会員の逝去について

社会政策学会・名誉会員でありました高島道枝会員が 2015 年 8 月 28 日にご逝去されました。謹んで、ご冥福をお祈り申し上げます。

代表幹事 平岡 公一

6. 2014-2016 年 期幹事会報告

【第 9 回幹事会 議事録】

日 時 2015 年 9 月 12 日(土) 14:00～18:30

場 所 立教大学 12 号館第 1・2 会議室

出 席：居神、禹、熊沢、首藤、鈴木、所、平岡、平木、森、山田(和)

欠 席：阿部(彩)、阿部(誠)、岩田、埋橋、遠藤、大沢、垣田、沈、武川、藤原、松本、宮本、山田(篤)、横田

1. 春季大会実行委員会

斎藤委員長より、2015 年春季大会(第 130 回大会)について報告があった。

2. 春季大会企画委員会

所委員長より、2015 年春季大会の総括、2016 年春季大会の準備状況について報告された。フルペーパーの期限までの提出を行わない報告者への対応について話し合われ、より明確に、期限までの提出のルールの遵守を呼びかけていくことがあらためて確認された。大会報告の英文要旨提出を今後も義務づける必要があるかどうかについて、意見交換を行い、引き続き検討を行うこととした。また、フルペーパー提出の意義に関する学会の公式見解を会員に示す必要があるとの意見があり、その作成について検討することとした。

3. 秋季大会実行委員会

平木委員長より、2015 年秋季大会の準備状況について報告があった。

4. 秋季大会企画委員会

居神委員長より、2015 年秋季大会の準備状況について報告があった。また、宿泊関係や国際交流関係について話し合われた。

5. 学会誌編集委員会

阿部(彩)委員長より、学会誌刊行の進捗状況、論文投稿・審査の状況、および、今回から査読専門委員の再任についての意思確認を行い、54 名に、引き続き委員を委嘱(任期は 2017 年春季大会まで)したことについて書面による報告があった。

6. 国際交流委員会

鈴木副委員長より、2016 年春季大会に LERA から研究者が派遣され、国際交流委員会が企画する分科会が開かれることが報告された。その際の旅費は、本来、LERA 側が持つべきものであるが、その原則を再確認の上、今回の派遣決定についての LERA 側の事情から、今回に限り、旅費(宿泊費を含む)を本学会の国際交流関連費から支出す

ることが了承された。

続いて、ESPANET 大会報告者への参加費助成制度と大会報告者への参加費助成を一本化する「ESPANET・LERA 報告者参加費助成制度」案が提案され、これを了承した。

また、今後の国際分科会の開催方法について話し合わせ、引き続き検討するとされた。

さらに、社会政策学会と中国社会学会社会政策専門委員会の今後の国際交流についての両学会の代表の協議の議事録の紹介と、前回幹事会で承認された国際交流アドバイザー制度(協力員)に基づいて、金成垣会員を国際交流アドバイザーに委嘱した旨の報告があった。

7. 学会賞選考委員会委員の委嘱について

平岡代表幹事より、2014 年度委員 7 名のうち 3 名が任期満了し、新たな候補者には打診・内諾済みであることと、残りの 4 名(任期は 2016 年度春季大会まで)のうち 1 名が辞職したことが報告され、その後任委員の任期は残任期間のみでなく 2 年間となることが確認された。さらに、すでに内諾を得ている岩永理恵会員、榎一江会員、廣澤孝之会員への委員の委嘱を了承し、残り 1 名の委員の候補を決定した。

8. 国際交流に関わる分科会の運営について

平岡代表幹事より、学会大会での会合の 카테고리として、「共通論題」「テーマ別分科会」「自由論題」「書評分科会」のほかに、「国際分科会」「特別分科会」を設けること、「国際分科会」「特別分科会」についてはフルペーパーの提出、発表時間等について「テーマ別分科会」「自由論題」と同一のルールを必ずしも適用しないこと、「国際分科会」等について国際交流委員会等が配付資料の準備に責任をもつことなどの内容の申し合わせ案が提案され、一部の文言を修正の上、これを了承した。なお、「国際分科会」については、大会と別の日

に行うのが望ましいとの意見もあり、国際分科会のあり方については、今後も継続的に検討することとした。

9. 大会運営ガイドライン(仮称)の作成について

平岡代表幹事より、大会の企画・運営に関わる諸原則や実務上の取り決めについて一括して明記した規程、文書などがこれまで存在しなかったことから、それらを文書化し、随時改定することで大会企画・運営の円滑化を図るための大会運営ガイドライン(仮称)の作成が提起され、今後、その作成に向けて検討を進めることとした。

10. 2016 年度春季大会における教育セッション(仮称)の企画について

平岡代表幹事より、2016 年度春季大会における教育セッションの企画・実施に関する案が提示され、実施時期や参加対象者などについて意見交換がなされた。

11. 積立金を活用して行う事業について

平岡代表幹事より、重点事業推進積立金制度を活用した事業(国際シンポジウム)の案が提示され、意見交換がなされた。2016 年の秋季大会の共通論題と一体化して実施することは困難であることを確認し、内容と実施時期について、今後も継続的に検討していくこととされた。

12. 名誉会員の逝去について

名誉会員の逝去に関する会員への報告については、従来通り、原則としてニューズレター掲載のみとすることが確認された。

13. 入会申込者について

4 名の入会希望者について審議を行い、入会を了承した。

7. 承認された新入会員

氏名	所属名称	専門分野
(2015 年 9 月 15 日承認分)		
山崎 ちひろ	日本福祉大学看護学部	労使関係・労働経済
黒木 達雄	名古屋商科大学商学部	社会保障・社会福祉
齋藤 立滋	大阪産業大学経済学部	社会保障・社会福祉
Kho Mu-Jeong	UCL Bartlett Faculty of the Built Environment, Development Planning Unit	労使関係・労働経済